

【参考】用語解説

行	用語	解説
あ行	IoT	Internet of Things（モノのインターネット）の略。様々なモノがインターネットでつながり、離れたところにあるモノの状態を把握して操作したり、サービスを利用したりできる。
	ICT	Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。通信技術を使い、ヒトやモノをつなぎ、情報を交換・伝達すること。またその産業やサービス等を指す。 従来の IT（情報技術）に加えて「Communication」という言葉が入り、情報・知識の共有が重視されている。
	ID	Identification の略。システムやサービスを使用する際に利用者、登録者を識別するために使用する符号のこと。アルファベットや数字、記号などで構成される。
	イノベーション	新しい技術の発明や新しいアイデアなどから、新しい価値を創造し、社会的変化をもたらす自発的な人、組織、社会での幅広い変革のこと。 本市の基本計画 2025 では、イノベーションとほぼ同義とされるイノベーターズを取り入れた都市像を掲げている。
	EV	Electric Vehicle の略で電気自動車のこと。 電気をエネルギー源とし、モーターを動力源として走行する自動車のこと。 外部電源用のコンセントを備えており、災害時等には移動式の電源として活用することが可能。
	AR	Augmented Reality の略。現実の環境にコンピューターを用いて情報を付加することにより人工的な現実感を作り出す技術の総称。拡張現実。
	AI	Artificial Intelligence の略。人工知能。大まかには「知的な機械、特に、知的なコンピュータープログラムを作る科学と技術」と説明される。
	SNS	Social Networking Service の略。通信やネットワークを通じてつながりの場を提供するサービス。
	SDGs	2015 年に開催された「国連持続可能な開発サミット」で採択した持続可能な開発のための 2030 アジェンダに盛り込まれた 17 の持続可能な開発目標のこと。 本市は SDGs 未来都市に選定され、「堺市 SDGs 未来都市計画」を策定し取組を推進している。
	オプトイン	情報システム用語で、インターネット上での個人に関する情報の取得や利用、メール送信等について、ユーザーが同意・承諾の意思を示す行為のこと。またそれを前提とする仕組み、方式のこと。
オプトアウト	オプトインの反対で、インターネット上での個人に関する情報の取得や利用、メール送信等について、ユーザーが拒否の意思表示を示す行為のこと。またそれを前提とする仕組み、方式のこと。	
オンデマンド	需要に応じて、または必要となったときだけ供給・配信する方式。 ここでは、利用者の事前予約による、都度予約に合わせて運行する地域交通（オンデマンド交通）のことを指す。なお、運行ルートや発着地、運行時刻はそれぞれ固定されたものから需要に応じ運行するものなど、運行形態は様々である。	
か行	KPI	Key Performance Indicator の略。達成すべき目標に対し、どれだけの進捗がみられたかを評価するための定量的な指標。

行	用語	解説
	コンソーシアム	複数の企業や団体、行政、個人等が、特定のテーマや目標のもと、共通の目的に沿った活動（例：情報共有や研究、開発、実証、事業企画・推進等）を行う組織、共同体のこと。
さ行	再生可能エネルギー	資源が有限で枯渇性のある石炭・石油などの化石燃料とは異なり、太陽光・太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など、自然現象の中で更新されるエネルギー。
	サテライトオフィス	本社からはなれた場所（居住地の近くなど）に立地し、情報通信技術の活用により本社などと連絡を取りながら業務を行う事務所。オフィス形態としては独自のオフィス、シェア型のオフィスに大分される。
	シェアオフィス	自社だけではない複数の利用者が個々に自席を持たないオフィススタイルで使用するワークスペースのこと。
	シェアリングサービス	場所や乗り物、モノ、人など、個人等が保有する活用可能な資産等を、インターネットを介した賃借等により、他の個人等も利用可能とするサービス。
	CSV	Creating Shared Value の略で、「共有価値の創造」「共通価値の創造」の意。 企業の事業を通じて社会的な課題を解決することから生まれる「社会価値」と「企業価値」を両立させようとする経営フレームワークのこと。 マイケル・ポーターの提唱では、共通価値の概念について「企業が事業を営む地域社会や経済環境を改善しながら、自らの競争力を高める方針とその実行」と定義されている。
	次世代ヘルスケア産業	医療・介護需要の拡大や人手不足等の課題を抱える中、技術革新を活かし、全体最適化を図り、健康・医療・介護サービス等を提供することで、健康ニーズの充足とともに、スポーツ関連産業等と連携し新産業を創出すること。 本市では、健康寿命の延伸をテーマとし、関連する産業の創出、振興を図りまちを活性化するため、「堺市健康寿命延伸産業創出コンソーシアム」を設立し、産学と連携し取組を進めている。
	次世代モビリティ	情報連携、自動運転、シェアリングサービス、電動化などの新たな技術やサービスを活用し、多様化する移動ニーズに対応する移動手段や交通サービスのこと。 本市では、2019年度に泉北ニュータウン地域で自動運転車両の実証実験を行うなど、取組を進めている。
	省エネ	省エネルギーの略。同じ社会的・経済的効果をより少ないエネルギーで得られる様にする。
	自立分散型電源	自立的に発電できる小規模な発電システムを、地域の需要に応じて分散して設置するもの。想定される発電システムには、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電などがある。
スマート区役所	行政システムの標準化、ICTの活用、システム・AI等のサービス利用等により、事務作業の縮小、事務処理ミスの削減を図り、企画立案業務や住民への直接的なサービス提供等の職員でなければできない業務に注力できる行政の概念。一般的にはスマート自治体と呼ばれる。 本市では、2020年度より南区役所をモデル区として、行政手続きなどの効率化による区民サービスの向上（区民の生活の質の向上）を目的に、職員の業務改革・働き方改革を含め、ICT等の最先端技術を導入することなどにより、区民や職員を取りまく環境の改革を推進している。	

行	用語	解説
	スマートシティ	ICT 等の先端技術を活用し様々な地域課題の解決を図り、また市民の利便性と生活の質の向上をめざす取組。
	スマートモビリティ	カーナビや自動運転をはじめとする IT 技術、電気自動車等の環境対応技術など、交通や移動のあり方を変える技術の総称。
	ZEH	ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略。住宅の高断熱化と高効率設備により、快適な室内環境と大幅な省エネルギーを同時に実現した上で、太陽光発電等によってエネルギーを創り、年間の一次エネルギー消費量が正味でゼロ以下となる住宅のこと。
	ゼロエネルギータウン	一般的には、ネット・ゼロ・エネルギー・タウン（略称：ZET）と呼ばれる。ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスは、住宅であるのに対して、まち全体のことを指す。 本市では、日本発の ZET である「スマ・エコタウン晴美台」の実現に取り組んだ。
	創エネ	創エネルギーの略。太陽光発電、風力発電など、自然エネルギーの利用や、熱効率の高いガスコージェネレーションや家庭用燃料電池を使用する事により、二酸化炭素の排出量削減に繋がる環境にやさしいエネルギーを創出すること。
	Society5.0	狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）の次に到来する社会であり、サイバー空間と現実世界を高度に融合することで、経済発展と社会的課題の解決を可能とする人間中心の社会。
た行	都市 OS(データ連携基盤)	都市オペレーティングシステムのことを指す。都市に存在する膨大なデータを活用し、データのマネジメント（管理等）、各種サービスの連携、外部データ連携、システム管理等を行う IT システムのこと。
	地域冷暖房	一般的には、地域冷暖房システムと呼ばれる。集中化した熱源プラントで製造された冷水、温水、蒸気などを、地域の配管を用いて供給区域内の複数のビルや住宅等に送り、冷房や暖房、給湯を行うシステムのことをいう。
	データポータビリティ	個人が企業等に提供したデータを自分で管理し、本人の意思に基づき自由に移動できること。
	デジタル・ディバイド	インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。
	テレワークオフィス	ICT を活用し、本拠地のオフィス等から離れたところで仕事を行うための場所・オフィスのこと。一般にはサテライトオフィスなどと呼ぶこともある。 本市では 2020 年 11 月に南区役所にテレワークオフィスを開設し、泉北ニュータウン地域をはじめとして取組を進めている。
	土地利用転換	何らかの用途で利用している土地について、その用途を転換し利用すること。
な行	ニューノーマル(新しい生活様式)	以前とは異なる生活習慣、新たな常態・常識等で過ごすこと。昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により注目された言葉で、日常生活、勤務形態、レジャーなど、あらゆる行動やライフスタイルの変化が求められている。
は行	パーソナルモビリティ	歩行と既存移動体（従来の自動車）との間を補完する一人乗りの移動機器。

行	用語	解説
	VPP	Virtual Power Plant の略。IoT を活用した高度なエネルギーマネジメント技術により、工場や家庭などが有する分散型のエネルギーリソースを束ね、遠隔・統合制御することで、あたかも一つの発電所のように機能させる仕組み。
	フレキシブルオフィス	一般的な賃貸借契約とは異なり、短期間契約ができるなど、柔軟な契約スタイルをもつワークプレイスの総称。サテライトオフィス、シェアオフィス、コワーキングスペースなどがある。
ま行	MaaS	Mobility as a Service の略。ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体に関わらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとして捉え、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念。 利用者はスマートフォンのアプリを用いて、交通手段やルートを検索、利用し、運賃等の決済を行う例が多い。
	モビリティ	Mobility は動きやすさ、移動性、機動性の意。 交通分野では、人が社会的活動のために交通（空間的移動）をする能力を指す。一般にモビリティは、個人の身体的能力や交通手段を利用する社会的・経済的能力、交通環境によって左右される。
や行	ユーザーインターフェース	パソコンやスマートフォンなどコンピューターを操作するうえでの扱いやすさや操作感などの環境のこと。
ら行	リモートワーク	勤労形態の一種で、情報通信機器等を活用して、時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働くことができる形態のこと。